

徳島県「こどもの居場所」多様化推進事業

「こどもの居場所」共創フォーラム 開催報告

『こどもたちの声』を起点に参加者全員で「わたしたちが考えるこどもたちの居場所」創造しました

11月14日（金）、徳島県「こどもの居場所」共創フォーラムが開催され、「こどもの居場所」運営者をはじめ、こどもの支援に関心のある約90名の方がたにご参加いただきました。このフォーラムは、「こどもまんなか」の理念に基づき、徳島県内外でご活躍の皆さまの先進的活動事例に加え、実際のこどもたちの声の共有を通じて、徳島県内で「こどもの居場所」づくりの支援の輪を広げることを目的として開催されました。

事例発表では登壇者の方がたから、徳島県内においてすぐにも取り組める具体的な事例を発表いただき、次に続くグループワークでは、こどもたちの発表や事前にヒアリングしたこどもたちの声を起点に、参加者全員によるディスカッションが活発に行われ、「わたしたちが考えるこどもの居場所」が次々と創られていきました。このフォーラムを通じて、「こどもまんなか」理念の共有と目的としていた支援の輪の拡大を体現することができたと考えています。

徳島県内のすべてのこどもたちが、未来に希望を見出し、生きていくことのできる地域社会となるよう、これからもこどもたちとともに考え活動を続けて参ります。



たくさんのおこどもたちが協力してくれました。ありがとうございました。



「こどもの居場所」に取り組まれている方々の事例発表

～滋賀県の特特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター理事長 幸重さんに発表いただきました～



～徳島県内の5名に発表いただきました～



ファシリテーター
鳴門教育大学 木村先生



一般社団法人ひとみ学舎
居上さん



NPO 法人 YOU & ゆう
岡田さん



一般社団法人うみのこてらす
川邊さん



鴨島児童館
木村さん



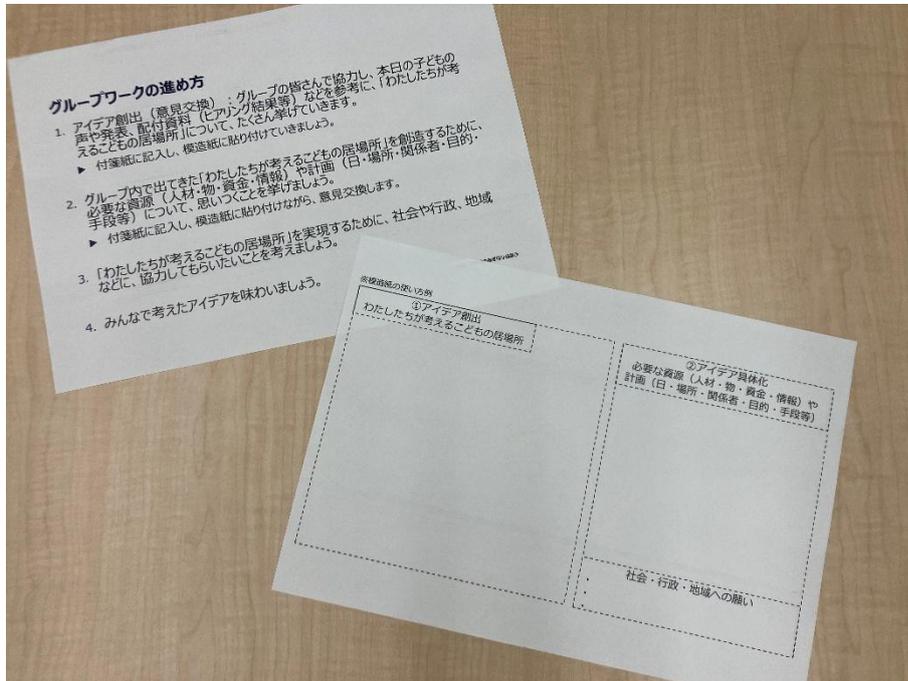
板野町子ども家庭総合支援センター
吉本さん



2025.11.14 開催「こどもの居場所」共創フォーラム
開催報告

～参加者全員で「未来の居場所」をグループディスカッションしました～

▷グループワークの進め方



▷グループワーク時の風景



～グループディスカッションの成果～



I. わたしたちが考える「こどもの居場所」：グループディスカッションより

1. 安心感があり人とのつながりが感じられる

- ・ 子どもたちが孤独を感じず、温かい雰囲気がある
- ・ ありのままの自分を受け入れてくれる安心感がある
- ・ 誰かとつながりを持てる空間であり、信頼できる大人がいる、一人にもなれる
- ・ やさしい大人やカッコいいと思える大人がいる、しんどさも理解してくれる大人がいる

2. 自由に表現でき自由に活動ができる

- ・ 子どもたちが自分の意志で出入りでき、やりたいことを実践できる場が提供されている
- ・ 宿泊ができる、宿題やスポーツもできる、校区内で子どもが自分で行ける、親子でも来れる

3. 多世代多文化による地域での自然な交流

- ・ 異年齢の人々が集まり、誰でも参加できる雰囲気がある
- ・ こどもも大人も障害のある子も高齢者も外国人も誰でも参加でき、昔のようなつながりがある
- ・ 地域のつながりを感じられる、ときには、大人も相談できる
- ・ 地域のすべての方が集うことができる。

4. 学びと成長の機会

- ・ 子どもたちが社会を学び、さまざまな体験を通じて成長できる環境が整っている
- ・ 日本の伝統なども学べ、家ではできない様々な経験ができる
- ・ 善悪を判断でき働くこと生きることを学べる

5. サポートとともに楽しいと感じられる身近な場所

- ・ こどもカフェや地域食堂など美味しい食事が食べられる
- ・ 病院にも連れて行ってくれる、様々な支援をするが支援していると言わない
- ・ フリースクールオルタナティブスクールとして授業日数として認めてくれる
- ・ 子どもたちがいつでも戻ってこれる必要な支援を受けられ、楽しいとも感じられる、大人も楽しんでいる

創出されたアイデア

楽しい/笑顔がいっぱい/ゆっくり落ち着ける/つながってくる人や大人がいる/何でも聴いてくれる人がある/ずっと見ていてほめてくれる/楽しく会話できる/干渉されすぎない/我慢しなくていい/孤独を感じない皆とつながりを感じられる空間/そこへ行ったら誰かがいる/不登校を経験した人など子どものしんどさを「肌感覚」で分かってくれる大人がいる/こどもでも通えて 1 人でも不安なく入れる/子ども同士で楽しく過ごせる/子どもが自分の足でも行ける/校区内に自転車で好きな時に行ける/自分を大切にすることを育む/存在や意見を否定しない/みんなが温かい/こどもも大人も自由に意見が言える/信頼できる人や大人がいる/親子で来られる/こどもが大人の相談にのってくれる/誰でも参加できて自然と仲良くなれる空間/支援していると言わない/障害のある子も高齢者も外国人も誰でも参加しやすい/少人数でゆっくりまったりできる/たまには新しい出会いもある/こどもが活躍できる/自分の意志で出入りできる/善悪を判断する心を養う/やってみたいことが実践できる/自分の時間を持てる/宿題ができる/勉強を教えられる/夜の時間を過ごせる/泊まれる/美味しいものが食べられる/おやつがある/自然の中でいろいろな体験ができる/いたずらできる/自分の特技を見つけられる/ぐっすり寝れる/家ではできないこと楽しい経験体験ができる/自分の想いをアートで表現できる/自分に役割があり役に立てる貢献できる/ChatGPT など最新のテクノロジーに触れられる/いろいろと聞かれない通いやすい場所/嫌なことをしなくてもよい/子どもも大人も友達ができる/出入りが自由にできる/社会を学ぶ/病院に連れて行ってくれる/みんなが集まってスポーツができる/日本の昔からの伝統文化を学べる/ダンス教室/公園や図書館のある広い場所がありボール遊びもできるが 1 人にもなれる/食堂・調理もできる/こどもカフェ・子ども地域食堂/駄菓子屋さん/温水プール/学童保育・児童館・フリースクール/こども送迎タクシー/一緒に家まで行ける伴走できる/働くこと生きることを目的とした居場所/高校生以上で働く一歩をサポートできる場/いつでも戻ってこれる場所（帰ってこれる）/授業日数を認めてくれるフリースクール/ドッグランのような場所/オルタナティブスクール/ピオトープが考えられているような生き物の多い場所/はみ出して一人にいるときあなたは別におかしくないと誰かに言ってもらえる/午前中の児童クラブを利用できる



Ⅱ. わたしたちが考える「こどもの居場所」を創造するために必要なこと：グループディスカッションより

1. 関わる人や地域のつながり

- ・ 一緒に活動する仲間、ボランティアやボランティアコーディネーターなどの人材の確保
- ・ まちの専門家に関わってもらい、地域の理解者や運営者のモチベーションも重要
- ・ 小中高校生がいっしょに話やゲームができ、お年寄りと一緒に日本の昔遊びを伝えていくことのできる場
- ・ 地域でつながるための行政職員
- ・ コミュニティ同士がつながる、ネット空間やインターネットを活用する

2. 地域資源の活用と情報発信

- ・ 空き家や商店街、旧小学校・集会所など社会施設を利用する
- ・ 農家や高齢者施設とのタイアップ
- ・ 地域の居場所マップを作る

3. 資金調達とノウハウの共有

- ・ 十分な資金や行政の資金援助、クラウドファンディング
- ・ 公的施設の無料化や手続きの簡素化
- ・ 他機関との連携や立ち上げるノウハウ（法人など）の共有

4. 具体的内容

- ・ 遊ぶこと、静かに過ごすこと、スポーツもできる場所、スピーチ体験や文芸体験
- ・ 地域に住む大人の仕事に就いて話を聴く機会をつくる
- ・ 1食300円（給食費にあわせて）の宅食の支援や子ども食堂の運営、朝食会の開催
- ・ 長期休みの対応、24時間対応、フードバンク・自転車バンク

創出されたアイデア

一緒に活動する仲間・人手（誰でもいいわけではない）/まちのお店・まちのプロ（ミュージシャンとか）/大人も若者も理解者/ボランティア・ボランティアコーディネーター/地域でつながるための行政職員/運営者のモチベーション（参加する人がいる限り続けたい）・個人の信念・信頼・人柄で細く長く継続できる/1食300円（給食費にあわせて）の宅食の支援/子ども食堂/ボランティアをしてくれる人材の確保/小中高校生がいっしょに話やゲーム（縦のつながり）/お年寄りと一緒に日本の昔遊びを伝えていく/外国の方と"ゲームを通して"スピーチ体験/学校の先生が居場所を理解すること/こどもと近い年齢の支援者/多世代の人がいる/近所の会社やお店の人がいる/集まる人がフラットな関係/こどもが遊べるゲーム類/空き家/旧小学校・集会所など社会施設/遊ぶ・静かに過ごす・スポーツができる所/決まった時間以外でも食事食べ物を用意されている/フードバンク・自転車バンク/農家とタイアップ（野菜や米の栽培や収穫を体験）/人が集まれる空間・ネット空間インターネットの活用/自然と動物のふれ合い（ドッグランなど）/お茶体験・琴・たいこ演奏体験/食育活動（収穫した野菜などによる調理実習）/地域に農園をつくる/子どもが出かけられる距離にある居場所のマップ/家・空き家/ソファなどつるげるもの/高齢者施設等既存施設の利用/朝食会（登校前にごはんを提供）/長期休みの対応/24h対応/SOSが出せる/選択肢が多い/地域に住む大人の仕事について話を聴く機会/まずつくる/十分な資金/クラウドファンディングや行政の資金援助/公民館など無料で/簡易な手続きで得られる資金/立ち上げるノウハウ（法人など）/それぞれの居場所やコミュニティがつながること/民家や商店街などの一般家屋と連携して子供の選択肢を拡充すること/他機関と連携しながらサポートすること/1人1人にあった場所をつなげる機関づくり/地域の人との関わり/ボランティアグループ・母の会/それぞれの地域での居場所



Ⅲ. 地域社会や行政などに協力してほしいこと：グループディスカッションより

- 1. 居場所の理解と普及**（地域の人々の積極的な関与により居場所の普及を促進する）
 - ・ 施設や居場所への理解やそれを常識として一般市民が自然なものとなること
 - ・ 人と人とを結びつけるような取り組みや頑張っている人の邪魔をしない姿勢
 - ・ 広告 PR を広く行う
 - ・ 気軽にできる活動から始め、コンビニ感覚で数多くの居場所をつくる
- 2. こども中心のイベント開催**（こどもが通いやすい居場所を創出し地域活性化につなげる）
 - ・ こども中心のイベントや居場所へ行くことのサポート
 - ・ 数多くの居場所をつくり、中高生の居場所もつくる
 - ・ こどもと一緒にチラシを作成し広報する
- 3. 情報発信とネットワークづくり**（こどもや地域の方が情報を受け取りやすく、活用しやすい仕組みをつくる）
 - ・ 居場所がネットで簡単に調べられる、資源マップやポータルサイトを見やすくする
 - ・ 地域の資源を可視化するための情報発信やネットワークの構築
 - ・ 新聞や雑誌社との連携
- 4. 資金支援と手続きの簡素化**（居場所や支援体制の持続可能性を高める）
 - ・ 地域の方からの寄付や行政の資金支援、こどもへの予算増額
 - ・ ボランティア団体の立ち上げ相談支援体制
 - ・ 公的施設の無償貸与、公共交通（タクシー含む）の利用補助
 - ・ 助成金などの簡素化と先払いの仕組み
- 5. 行政との連携と支援の均一化**（地域間格差の解消と地域幸福度向上を図る）
 - ・ 行政の下請けではないとの認識、行政の変容
 - ・ 民間と行政との連携、行政による各機関の仲介、人と人とをつなげていく仕組み
 - ・ 子育て支援レベルの均一化、教育レベルの向上
 - ・ 行政による積極的な広報活動や相談体制など細かいサポート

創出されたアイデア

施設や居場所への理解やそれを常識として一般市民が自然なものとなること/チラシや新聞に載せやすくなる環境/雑誌社の連携（一般市民がすぐ表現できる）/居場所に行くことをサポートしてほしい/こども中心のイベントを/頑張っている人の邪魔しない/だまって見守ってください/こどものためにいいことは取り入れよう/中高生の居場所をつくらう/地域活性化はこどもから/こどもまんなかで/居場所がネットで簡単に調べられるとよい（学びのカタログ）/学習支援/地域の方の寄付/ネットワークづくり/来れない人を発見する/数多く居場所があってほしい（コンビニ感覚で）/いろいろな施設（老人保健施設・ラーメン屋・すし屋）他/人と人とを結びつけるような取り組み/多くの希望者（支援したい人）が気軽に活動できる事例をまずはスタートさせる・広告 PR を広く行う/補助金助成金が終わった後の継続支援/団体内での参加費も繰り越せるようになってほしい/助成金を簡素化してほしい/各機関への仲介役/助成金の支払いを先にお金の使用範囲の拡大/公立・行政で/行政へ変わってほしい/民間の居場所への金銭的支援（金銭的に細く長くが難しい）と手続きの簡素化（手続きが煩雑）/建物をつくるだけでなく細かいサポートを/行政が積極的に話を聴いてくれる/行政が補助金を出してくれる/チラシなどこどもと一緒に作成して広報/子ども食堂ネットワークの活用事業/ボランティアの参加が増えるよう支援/概算請求がもっとできるようになってほしい/こどもへの予算/各市町村の理解が必要/ボランティア団体の立ち上げの相談/町ごとの資源マップ/ポータルサイトをもっと見やすく充実してほしい/私達は行政の下請けではない/助成金/民間と行政の連携必須/公共交通（タクシーも）の利用補助（こどもバスのなしくみ）/板野町のように財源を確保してほしい/市町村で子育て支援のレベルが違いすぎるので均一化してほしい/教育レベルをあげることで貧困の連鎖をとめることができるので地域の居場所で学ぶ取り組みを/支援をしたい人を広くつなげていく仕組みを行政地域で大々的に PR していく（里親制度やヤングケアラー対策など）/こういう機会がもっと開かれるべきである

フォーラムに参加した感想など（アンケート結果のなかから子どもたちに関する回答を抜粋しました）

若者から直接話を聞く場という
のはとても重要なことだと思った
し、生の声が聞けてよかった。

こどもの発表を聞けるのは良か
った。大人ばかりが意欲的にな
らず、当事者たちに目を向けて
いるの感じがした。

子どもたちの発表が本質を突い
ていて、胸に迫るものがあった。

若者の声が自
然に入った。

子供さんたちの生の声が
聞けて良かったです。

どのプログラムも良かったです。
若者による発表、特に良かったです。

実際の子どもの声をお声をきけ
て良かったです。

子供の意見に気づかされ
る事があった。

子どもへの愛が
感じられた。

若者の声は真っすぐでびびく！

子どもの居場所は役所の机の上で
の協議だけでは見つけられないな、と
思えた。紹介事例を聞いてなるほ
ど、と思えた。

子ども達と話をしながら、子ども達が企
画していくこと等々が大切だと思いまし
た。いろいろリラックスできる体験をする
ことは、楽しい。

子どもたちの居場所は子どもたち
本人が「ここにいていい」と思う場
所でないとならないのだと思った。

各団体の取り組みや大切にしてい
ることが、子どもを真ん中にして
考えられており、心に響いた。

以 上

